



活動報告書

ウガンダの学校で「布ナプキン事業」のスタートアップに挑戦！

牧弥佑 山田莉央

目次

はじめに.....	2
1. 活動名.....	2
2. 活動目的・背景.....	2
3. プロジェクトの概要.....	2
4. 活動内容.....	3
4-1 スタートアップに必要な資機材購入.....	3
4-2 ナグル初等学校訪問.....	3
4-2-1 校長先生との顔合わせ.....	3
4-2-2 ナグルスラムツアー.....	4
4-2-3 先生方とのミーティング.....	4
4-2-4 クラブメンバーとのミーティング.....	5
4-2-5 クラブメンバーの発表.....	5
4-2-6 布ナプキンの配布.....	6
4-2-7 テーラーセンターの立ち上げ.....	6
5. 収支報告.....	7
6. おわりに.....	8
7. 謝辞.....	8



はじめに

この度は、本プロジェクトにご協力いただきありがとうございました。皆様の温かいご支援のおかげで、クラウドファンディングの目標金額も達成して、現地の女の子たちにミシンを届けることができました。活動報告が遅れましたことお詫び申し上げます。

1. 活動名

ウガンダの学校で「布ナプキン事業」のスタートアップに挑戦！

2. 活動目的・背景

ウガンダをはじめとした途上国では、生理が原因で女子生徒が中退してしまうという問題があります。さらに、生理について言及することがタブーという文化的背景があり、青年期の男女が学校や家庭で生理について教わらず、月経に関する正しい知識、衛生・性教育が不足していることも深刻な問題です。そうした月経による女子生徒の教育中断を防ぐことを目的に活動しています。

3. プロジェクトの概要

場所：ナグル初等学校

内容：学校の一室にミシンを設置 / 布ナプキンの制作やトレーニングの実施

対象：女子生徒 50 名、女性 20 名

Global Bridge Network 代表の大西さんが、ウガンダのスラム地域で活動するデイジーという女性（Visionary Lady Foundation (VLF) 代表）とのコラボ企画を私たちの挑戦の場として提供していただき、このプロジェクトはスタートしました。デイジーは、ウガンダのスラム地域の学校で、月経にまつわる課題の解消に努めています。そして、スラム地域に位置するナグル初等学校は、VLF のデイジーと共に”MHM（月経時の衛生管理）クラブ”を設立し、月経にまつわる課題に取り組んでいます。MHMでは、月経に関する知識や衛生管理に関するワークショップが行われてきましたが、ミシンや糸などの材料がないために布ナプキン制作のトレーニングを実施できず、いまだ古布を代替している女子生徒が大半いるという状況です。そこで、VLF がスラムの女性グループと MHM クラブに所属する女子生徒の両方を対象とした布ナプキン作製トレーニングの実施と、布ナプキンの作製をできるよう、私たちが環境づくりのサポートを行います。継続的に生産される布ナプキンは、まず学校の女子生徒全員に配り、その後その地域の他の学校にも配布する予定です。

このプロジェクトは完成形ではなく、あくまでスタートアップ。今後、活動が安定してきたら目標である 1000 人のもとに布ナプキンを届けられるようサポートを継続し、展開していきます。

4. 活動内容

【スタートアップに必要な資機材購入】2022年8月13日

(ミシン、ブロックマシーン、ボタン留め、ボタン、布、裁縫道具)



【ナグル初等学校訪問】2022年8月16日

- ・校長先生との顔合わせ
- ・ナグルスラムツアー
- ・先生方とのミーティング
- ・現地生徒との交流
- ・機材の搬入

4-1 スタートアップに必要な資機材購入

- ・VLF プロジェクト代表のデイジーに同行して、カンパラの都市部を訪れました。
- ・家電屋でミシン、ボタン留め、ブロックマシーン等を購入しました。
- ・手芸店で布を購入しました。
- ・手芸店で裁縫道具（針、ハサミ、糸など）を購入しました。

4-2 ナグル初等学校訪問

4-2-1 校長先生との顔合わせ

学校に着いて、まず初めに校長先生とお話しました。小さな学校だけれども、少しずつ学校を発展させてきて、今では130人ほどの生徒がいること。教科書やペン、制服などを買うことができない生徒が多くいること。学校や生徒について、そして生徒たちが抱えている問題についてなど、さまざまなことを教えていただきました。



4-2-2 ナグルスラムツアー

ツアーは、この地域に詳しいディレクターと学校の教頭が引率してくれました。飛び越えなければならぬほど大きな排水溝や、狭い路地もすべて案内してくれました。視察中、さまざまな家庭を訪問したのですが、その多くはシングルマザーの家庭であり、これまでどのように一人で家庭を守り、子どもたちを教育してきたか、その困難な道のりを語ってくれました。彼女たちは、自宅敷地内で野菜の販売などをしていますが、得られる収入は少なく、暮らしと子どもの教育を一人で担うことが困難な状況であることを明かしてくれました。また、月経の健康管理について知っていることや、娘たちに対してどのように対処しているのかを尋ねました。回答はポジティブなものでしたが、経済状況から生理用品を購入するための十分な資金がないという課題を抱えていました。



4-2-3 先生方とのミーティング

先生方は、緊急用の月経用品は学校の優先事項や予算には含まれていないことが一般的だとおっしゃっていました。緊急用の使い捨てナプキン、ごみ箱、焼却炉などは高価であるため、これまでMHMのための計画や予算配分をしたことがないそうです。そのため、学校は保護者に月経に関する対応を任せていましたが、保護者もまた生活維持や学費の対処で精一杯なのが現状だそうです。また、保護者が娘に月経の健康管理について十分な教育を行っていないことも明らかになりました。これは、家庭で月経を話題にすることを避けたり、恥じたりすることに関連していて、地域社会全体でもこのことについて議論されたことはないそうです。保護者はこの問題を学校の教師に任せきりにしていますが、保護者の協力がなければ、学校での対応も難しいのが現状です。先生方が取り上げたもう一つの問題は、学校の月経衛生管理の施設が不十分かつ貧弱で、安全性にも欠けていることでした。訪問した学校でも、水、プライバシーを守るための更衣室、石鹸などの十分な水と衛生の設備はなく、学校で使用可能な設備は女子生徒にストレスや危害を与えるほど非常に状態が悪いものでした。話し合いから、学校や家庭に適切な設備がないために、女子生徒が恥ずかしい思いをしていたり、制限されていたりすることが明らかとなりました。そして、そうした理由から、女子生徒たちは月経が終わるまで学校に行かず、家で孤立することを選んでしまいます。



4-2-4 クラブメンバーとのミーティング

ナグル初等学校には5年ほど前にVLFが同校に加盟して設立された女子生徒向けのクラブ（月経衛生クラブ）があります。クラブに所属している生徒たちが、どのように月経の健康管理をしているか、体験談を話してくれました。ほとんどの女子生徒は生理に関する要望を伝えたり、生理が始まった際に助けを求めたりすることを、とても恥ずかしく感じていて、勉強を続けられるよう学校で助けを求めるよりも、家に帰る方がずっと楽なのだと述べていました。また、使用済みの布切れ（ナプキンの代わりに使用しているもの）、生理用ナプキンなどの廃棄物の管理に関する問題にも直面していることが明らかになりました。女子生徒たちは、使用済みの布きれをトイレに直接捨てるか、スクールバッグに入れて家に持ち帰っていますが、カバンや教科書に臭いが移ることもあります。また、男子生徒が女子のカバンをチェックし、生理用品などを見てからかったり、困らせたりすることもあるそうです。



4-2-5 クラブメンバーの発表

MHM クラブの生徒たちが、学校で少女たちが直面する問題を表す寸劇を発表してくれました。寸劇では月経の健康問題に関して、学校内のさまざまな関係者の役割を示すとともに、その問題によって少女たちが学校を退学してしまう様子も描かれていました。ほとんどの少女は、学費や学用品が不足していることに加えて、月経が始まることを恥じて学校をやめてしまいます。これは、漏れた経血を見たクラスメートや他の女子生徒から笑われることがあるためです。その結果、女子生徒たちは月経に関して嫌悪感を持ち、学校を退学してしまいます。



4-2-6 布ナプキンの配布

カンパラのスラム街では、使い捨ての生理用品は高価で、簡単に手に入れることはできません。インタビューを行った女子生徒のほとんどは、服の切れ端や古いタオル、毛布などの布切れを使って月経の対応をしていました。しかし、これらの素材では経血が漏れ、服を汚してしまうため、生理用品としては不十分であり満足していないようでした。市販の使い捨て生理用品は、主に保護者から経済的な支援を受けている少女たちの間で使われています。

そのような状況にある女子生徒に、1年以上使い続けられる再利用可能な生理用布ナプキンを配布しました。この布ナプキンは、私たちが高校時代に行っていた活動で集めたものであり、様々な方々の協力のもとで作製されたものです。事前に管理の仕方や使い方のレクチャーをしたうえで、一人ひとりに直接手渡しをしました。



4-2-7 テーラーセンターの立ち上げ

VLF は、再利用可能な生理用品を作るなど、月経にまつわる課題を解決するために、テーラーセンターを立ち上げました。センター立ち上げに必要なミシンなどの機械は今回のクラウドファンディングで集めた資金で購入し、学校に搬入しました。ミシンは保護者会使用し、学校の先生方と月経衛生クラブが管理することになっています。生徒に機械の操作方法を実演し、使い方について説明しました。今回は機材の搬入をして、簡単な操作方法をレクチャーしただけでしたが、これから機械を使いこなせるよう少しずつ練習していくそうです。

後日ダイジーから送られてきたセンターの様子はこちら (<https://youtu.be/FK3H-JRl4KU>) から確認していただけます。ぜひご覧ください。

このマシンがあれば、自分たちで生理用ナプキンを作ることができます。ありがとうございます！！



5. 収支報告

収入の部					
項目	金額	概要欄			
支援金総額	¥30,100				
readyforシステム利用手数料	¥39,732				
差引額合計	¥261,268				
換金	¥150,895	1100ドル			
余剰	¥110,373				
支出の部					
テーラーセンター					
名目	数量	単位	単価 (UGX)	金額 (UGX)	金額 (ドル)
コットン素材	2	メートル	15,000	30,000	\$8
フリース	2	メートル	35,000	70,000	\$18
ポリ新素材・レインコート素材	2	メートル	20,000	40,000	\$10
ハサミ	2	個	2,000	4,000	\$1
まち針	2	セット	50,000	100,000	\$26
綿糸	50	本	3,000	150,000	\$39
リッパー	2	パック	1,000	2,000	\$1
ボタン	1	袋	120,000	120,000	\$31
ボタン留め機	1	台	550,000	550,000	\$143
ミシン	2	台	350,000	700,000	\$182
ロックミシン	1	台	1,000,000	1,000,000	\$260
メジャー	2	個	1,000	2,000	\$1
機械用オイル	1	箱	1,500	1,500	\$0
PKT コーン	1	Months	4,000	4,000	\$1
布用穴あけパンチ	1	個	80,000	80,000	\$21
機械の配送と組み立てサービス	1	回	60,000	60,000	\$16
交通費 (機械購入、学校への送迎)	4	日	20,000	80,000	\$21
円錐台	6	type	2,500	15,000	\$4
通信費	1	回	50,000	50,000	\$13
小計				3,058,500	\$795
リターン					
お土産代	10	セット	670	6,700	\$2
ポストカード	30	枚	1,833	55,000	\$14
小計				61,700	\$16
合計				3,120,200	\$811
諸経費					
名目	数量	単位	単価 (円)	金額 (円)	
スマートレター	10	枚	¥180	¥1,800	
切手	5	枚	¥84	¥420	
合計				¥2,220	
差引残高					
通貨	収入	支出	差引		
ドル	\$1,100	\$811	\$289		
日本円	¥110,373	¥2,220	¥108,153		

残高の 289 ドルと 108,153 円は、今後のテーラーセンター運営に充てます。Global Bridge Network (GBN) がデイジーと月に 1 回行う MTG を通してテーラーセンターの運営状況を確認しつつ、具体的に何にいくら充てるのかを検討します。最終的な出費については、追加で会計報告をさせていただきます。

6. おわりに

今回、実際に現地を訪れたことで、月経の健康管理の問題はスラム街の人々にとっては非常に大きな問題であることを再認識しました。設備が整備されていなかったり、周囲にからかわれたりするなど、月経を理由に退学してしまう女子生徒が多くいます。自分たちの生活ですらままならない暮らしをしている生徒たちにとって、月経への対処は後回しにせざるを得ません。今回の支援によって、女子生徒からは前向きな意見、感想を多く受けたので、活動の効果を感じました。さらに、VLF は地域住民を常に学校活動に参加させることを推奨しており、そうすることで女性生徒が月経の初期に経験するリスクや課題を軽減することができます。地域を巻き込みつつ、活動に取り組むことで問題の根本的解決を目指します。今後は GBN が VLF のデイジーと連絡を取り合い、現地での活動状況やテラーセンターの状態、その効果をモニタリングしていきます。その報告については、GBN のウェブサイト、ブログ、FB などで掲載していきますので、ぜひご覧ください。

HP: <https://globalbridgenetwork.org/>

FB: <https://www.facebook.com/globalbridgenetwork>

7. 謝辞

今回の活動は、特定非営利活動法人 Global Bridge Network 大西麻衣子さん、横田美保さんの協力が無ければ達成することは出来ませんでした。終始温かく見守ってくださり、丁寧にご指導いただいたお二人には感謝の気持ちでいっぱいです。このような貴重な経験をありがとうございました。